

日本マンガ学会 第23回大会 シンポジウム 「マンガと〈展示〉」

基本情報

日時

2024年6月23日[日] 10:30-16:30

会場

京都国際マンガミュージアム
1階 多目的映像ホール

出演者

〈第1部〉

森川嘉一郎(明治大学国際日本学部准教授)/
金澤韻(インディペンデント・キュレーター)/
村田麻里子(関西大学社会学部教授)/
伊藤剛(東京工芸大学芸術学部マンガ学科教授/
[司会])

〈第2部〉

しりあがり寿(マンガ家)/
鷺谷祐也(株式会社FUNDOM!/
イベント企画開発グループ GM)/
イトウユウ(京都精華大学国際マンガ研究センター
特任准教授)/
表智之(北九州市漫画ミュージアム学芸担当係長/
[司会])

参加者数

187名

主催

日本マンガ学会

共催

京都精華大学国際マンガ研究センター/
京都国際マンガミュージアム

実施概要 2006年の設立以来、国際マンガ研究センターおよび京都国際マンガミュージアムは、日本マンガ学会の京都での大会開催に際して、共催者として関わってきた。2018年の第18回大会から4年ぶりの京都開催となった今大会でも、京都精華大学を会場とした研究発表の1日目に続き、2日目は京都国際マンガミュージアムでシンポジウムが催された。●1990年の東京国立近代美術館における「手塚治虫展」の開催以降、「マンガ展」はその場所や方法を拡げながら、近年では、マンガを楽しむ営みの一環としてすっかり定着したと言える。そうした中で、マンガを美術館のような場所で展示することの意味や、ビジュアル・ナラティブとしてのマンガ表現が、単行本や雑誌から展示空間というメディアに置き換えられることによる変化など、「マンガを〈展示〉するとはどういうことか」をめぐる論点が次々と浮上してきている。●第1部「マンガを〈展示〉するということ」では、理論的なアプローチから、マンガ展が登場した社会的背景とともに構造的な問題点について議論された。第2部「ひろがりゆく〈マンガ展〉のかたち」では、イトウが分類した「A」マンガ家の自己表現としてのマンガ展「B」ファンサービスとしてのマンガ展「C」〈研究〉による価値創出を目指すマンガ展」を担っている出演者が、それぞれの実践を紹介することで、マンガ展の幅広さと今後の展開の可能性について議論した。●なお本シンポジウムの詳細な記録は、日本マンガ学会発行の学会誌『マンガ研究』第31号(2025年3月)に掲載予定。 [文責=伊藤遊]

報道

- ・『読売新聞』2024年8月8日
「空前ブームで「学会」熱気 マンガ 展覧会も多様化」

イベント風景



シンポジウムの様子(第1部)。



シンポジウムの様子(第2部)。